

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	503A	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.510	△RG	0.057	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：503A

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

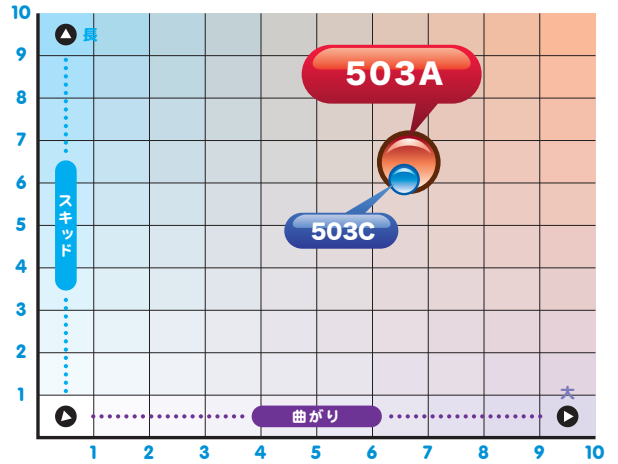
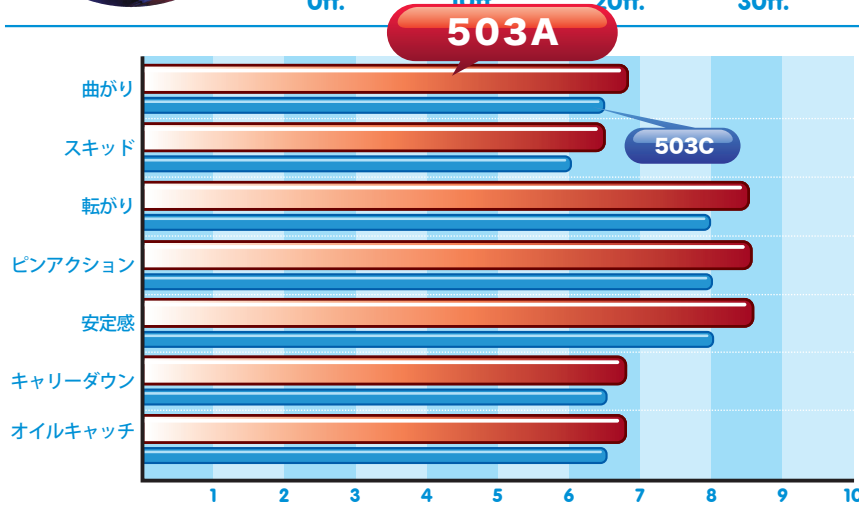
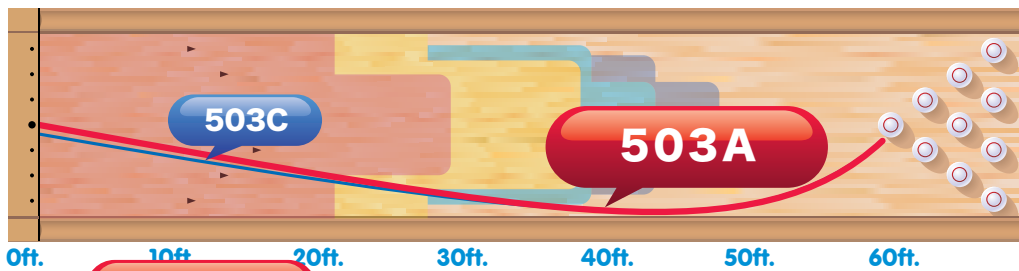
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：503C

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

これまで日本における多くの実績と期待を担ってきたトラック社の”5シリーズ”。2012年1月の508A以来、約1年ぶりに”勝ちにいくボール”として、この503Aが発表されました。

キャッチ力を決める最大の要素、カバーストックに300Aでも使用された”Gen MA (Moderate Angle)”、”A”(Angular)モーションを演出するコアとして、Packmanが導きだされました。300Aと503A同じカテゴリーのカバーストックを使い分けるため、工程と最終仕上げの差で違うキャッチ感を見出し、コアの違いで特性を表現する。言い換えれば、「3シリーズのスキッド感を保ちながら5シリーズ級のフリクションを得られる」ということでもあり、503Aで提唱しているスキッド&フリップと言う表現は、意図してこう作られているのだと感ずることができるでしょう。

実際300A、503C、503Aの3つで比較投球してみると、トラック社の表現以上に300Aと503Aのキャッチの差は大きく、「3」と「5」のカテゴリーとしてもしっかりとクラス分けが出来ていると感じました。同じコアの503Cとではスキッドは503Cのほうが軽く、グリップ力と長さは503Aのほうが増しているようにも感じます。やや薄いオイルの中でもスキッドしますが、その中でもただ軽いだけのスキッドではなく、グリップを感じながらの走りを得られました。

オイルに強すぎることもなく、弱すぎもしない。しかもフリップ状にリアクションを起こしても扱い辛いものではなく、コントロールできてピンアクションは柔らかない。私は503Aのバランスの良さ、総合的なポテンシャルは高いと思います。

5シリーズの中ではやや走り系のカテゴリーと考え、ミディアムからライトなコンディションで是非この503Aをお役立てください。

特記事項

今回の5シリーズはスキッド&フリップのリアクション性能。走りを重要視しても軽すぎないスキッド、ピンアクションの柔らかさまで持つに値する性能です。